

共通テストの問題について

<国語>

昨年度から「大学入試センター試験」から「大学入学共通テスト」に変わりましたが、試験の大枠は変わらず、**現代文2問（評論文・小説）、古典2問（古文・漢文）**でした。これまで通りの出題に、“新傾向問題”が加えられた出題内容でした。つまり、**これまで通りの基礎的学力は変わらず必要**であり、それに加えて**新しい力**を問いたいということです。

このような形での出題が大幅に変わらないとすると、皆さんに意識してほしいことは次の2点です。

1. 普段の授業を大切に、基礎学力をしっかりと定着させる！

- ・現代文 …漢字力や語彙力の強化
 - ・古典 …文法事項（古文単語、助動詞、漢文句形など）の定着
- 普段から予習復習を行うこと。小テストに全力で取り組む。長期休みを活用して反復する。

2. 膨大な情報を処理する力を身に付ける！

昨年度の共通テストの特徴として、**本文に加えて、本文に関連する別の文章や会話文、グラフ、図表などさまざまな種類の文章を読まなければならない**問が出題されたことが挙げられます。本文だけでなく、**複数資料から必要な情報をすばやく読み取る力**を身に付けておく必要があります。そのために、**普段からまとまった文章を読む習慣をつけておきましょう**。また、国語以外の授業でグラフや図表を用いて考える機会があると思うので、そういったチャンスを大切に、**さまざまな種類の文章に慣れておきましょう**。さらに、スピード感を身に付けるために、自宅での学習の際には、**必ず時間を計って問題を解くこと**。早く正確に文章を読む訓練をしておきましょう。

<英語>

大学入学共通テストには、「筆記（リーディング）」（80分）100点、「リスニング」（30分）100点があります。

★リーディングには次のような**特徴**があります。

- 特徴①** 総語数 5,000 語を超える膨大な文書量です。
集中力を切らすことなく、一定の速さで最後まで読み解く力が求められます。
- 参考 英語 I 教科書 Power On English Communication I (L1～L10) 総語数 **3,619** 語
英語 II 教科書 Power On English Communication II (L1～R2) 総語数 **5,381** 語
- 特徴②** 「事実と意見を整理する」問題、プレゼンテーションやディベートの準備など、「発信」を視野に入れた設定の問題等が出題されます。

～2021年1月16日実施 大学入学共通テスト 第2問Bより抜粋（本文省略）～

Dr Berger is basing his new policy on **the fact** .

「バーガー博士は という事実、新しい方針の根拠を置いている。」

- ①going home early is important 「早く帰宅することが重要だ」
- ②safety in the city has decreased 「市の安全性が低下した」
- ③the school has to save electricity 「学校は電気を節約しなくてはならない」
- ④the students need protection 「生徒は保護を必要とする」

注：実際の問題には日本語訳はついていません。

今回問題文で求められているのは、fact（事実）であり、opinion（意見）は誤答となります。では①～④を見てみましょう。

- ①「することが重要だ」＝意見
 - ②「低下した」＝事実
 - ③「しなくてはならない」＝意見
 - ④「必要とする」＝意見
- よって**正解は②**となります。

★リスニングには以下の特徴があります。
特徴①音が2回流れる問題と1回だけ流れる問題があります。集中力が求められます。
特徴②文法や語法の知識が鍵となるものや、**発言の要点を整理する力**が問われる問題が出題されました。
大学入学共通テストは、一見難しそうに見えるかもしれませんが、1、2年生の基礎をしっかりと固めていれば解けるようになっていきます。毎日の英語の授業の小テストは満点をとっていますか？**今の学習が直接実践力につながります。**

<数学 I・A>

m を正の整数とする。①の m 次方程式 $x^2 + mx + 1 = 0$ ……①について考える。

①のとき、①の左辺を因数分解すると $(x + \frac{1}{2})^2 - \frac{m^2}{4} = 0$ であるから、

①の解は $x = \frac{-m \pm \sqrt{m^2 - 4}}{2}$ 、 $\frac{1}{2}$ である。

②のとき、①の解は $x = \frac{-m \pm \sqrt{m^2 - 4}}{2}$ であり、大きい方の解を α とすると

$\frac{1}{\alpha} = \frac{-m \mp \sqrt{m^2 - 4}}{2}$ である。また、 $\frac{1}{\alpha} = \frac{1}{\alpha}$ を満たす整数 α は $\frac{1}{2}$ である。

太郎さんと花子さんは、①の解について考察している。

太郎：①の解は m の値によって、ともに有理数である場合もあれば、ともに無理数である場合もあるね。
 m がどのような値のときに、解は有理数になるのかな。

花子： m 次方程式の解の公式の根号の中に着目すればいいんじゃないかな。

①の解が異なる二つの有理数であるような正の整数 m の個数は 個である。

・ $\frac{1}{\alpha} = \frac{-m \pm \sqrt{m^2 - 4}}{2}$ $\frac{1}{\alpha} = \frac{1}{\alpha}$

$\frac{1}{\alpha} = \frac{-m \pm \sqrt{m^2 - 4}}{2}$ $\frac{1}{\alpha} = \frac{1}{\alpha}$

(1)(2)は c の値を代入すると因数分解や解の公式、分母の有理化を使う基本的な問題であることがわかります。(3)は会話文をヒントに(1)(2)の結果も合わせて考えることがポイントです。このように(1)(2)の結果や会話文がヒントになっているというのはよくある出題パターンですので、それを頭に入れて問題にあたってみましょう。また普段から、小テストや課題に真剣に取り組んで、基本的な問題を確実に正解するための力を身につけておくことが大切です。

共通テストの問題は試験日の翌日に新聞発表されます。(国語の問題は著作権の関係で一部非公開になります。) 1、2年生の皆さん。是非チャレンジしてみてください！